

## 創立40周年記念座談会を開催しました

このたび社会福祉法人三徳会は創立40周年を迎えました。その記念行事として高齢者から多世代の福祉についての座談会を2回にわたり開催しました。

第1回目の5月に行われた座談会は人生100年時代の生きかたをテーマとし、3名の先生方から健康寿命を延ばす生涯教育とはどんなものか、顔なじみ同士が地域で助け合って生きていくこと、運動が老後を元気にするという専門分野からのお話をいただき、品川区長、地域振興部長、福祉部長からは質問や感想が寄せられました。また、拝聴していた職員からも質問が挙がり、それぞれが人生100年時代の豊かな生き方を考えた座談会となりました。



**テーマ：**  
「高齢社会の福祉～人生100年時代の生きかた～」

**日時：**令和4年5月20日(金)

**場所：**品川区立荏原特別養護老人ホーム2F多目的室

**出席者：**  
国際医療福祉大学医学部高齢者総合診療科教授 岩本 俊彦  
精神科医・むかわ町国民健康保険穂別診療所副所長 香山 リカ  
中京大学名誉教授・医学博士 湯浅 景元  
品川区長 濱野 健  
品川区地域振興部長(前福祉部長) 伊崎みゆき  
品川区福祉部長 今井 裕美

**司会：**  
社会福祉法人 三徳会 理事長 内野 滋雄

## 職員リレーエッセイ



荏原ホーム  
ショートステイ室  
田代 学

先日、電話中のことです。通話先の友人が急に慌てた口調で「あとで掛けなおす」と言い残し、電話が切れてしまいました。その1時間後、友人より「道端で人が倒れていたから、近くにいた歩行者と一緒に自宅まで送り届けてきました」と。一部始終を聞きながら、私は尊敬の念を抱きました。

すると、その翌日。今度は別の友人からの電話でしたが、その内容に驚きました。その友人も「いま、付近の工事現場にも助けを呼んで、路肩に倒れている人を自宅まで送り届けてきた」と言うのです。

そんな2人の話を聞きながら、私も思い出したことがありました。去年のちょうど今頃の季節、仕事帰りに夕飯を買おうと歩いていたところ、ふと目をやると、車が通過する中、車道の真ん中で立ち尽くしている年配の女性に気づきました。慌てて声をかけ路肩に誘導、よく見ると薄着で所持品もない様子でした。目的地もはっきりしないため、「一度自宅に戻りましょうか?」と提案しました。「こっち」と言われるままに住宅街を歩き続けること15分、道端の段差に腰を下ろされ「おかしいな」と。自宅が分からなくなってしまったようでした。そこでタイミングよく通りかかった自転車のお巡りさんに引き継ぐ形となりました。翌日、「無事、自宅まで送り届けることができました。ありがとうございました」と連絡あり、ホッとしたのを覚えています。

冒頭でお話しした2人は医療福祉現場の従事者ではないですが、迷いなく人命救助に駆けつけることができる友人は、私のちょっとした自慢です。もちろん、「私に何かあった時もぜひよろしくお願ひします」と伝えています。



社会福祉法人三徳会  
お陰さまで創立40周年

社会福祉法人三徳会は令和4年11月に創立40周年を迎えました。これもひとえに法人を支えていただきましたご利用者・ご家族、地域の皆さま、品川区をはじめとした各関係機関の方々のご理解・ご協力あってのことと感謝申し上げます。

振り返りますと創立30周年からの10年間は「平塚橋特別養護老人ホーム」、「平塚橋ゆうゆうプラザ」の開所など法人事業にとって大きな展開がありました。また、令和元年から続くコロナ禍は予想だにしない出来事でしたが、多くの皆さまから、励ましの声やご協力をいただきました。

これからも三徳会はこの先の10年を見据え、たゆまぬ努力のもと地域と共に福祉の向上に貢献してまいります。今後ともご支援のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

## 広げよう福祉の輪！

# 三徳だより

第109号 2022年(令和4年)秋 一季刊

発行：社会福祉法人 三徳会  
<https://www.santokukai.com/>



荏原ホーム  
ご利用者の共同作品

特別養護老人ホーム 成幸ホーム・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・ショートステイ 〒142-0053 品川区中延1-8-7 TEL.(代)03-3787-3616 FAX.03-3783-6580 santoku-seikou@ap.wakwak.com
品川区立戸越台特別養護老人ホーム・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・ショートステイ 〒142-0041 品川区戸越1-15-23 TEL.(代)03-5750-1054 FAX.03-5750-1055 santokukai.togoshi-h@proof.ocn.ne.jp 杜松在宅介護支援センター <a href="http://www.togoshiginza.net/togoshi/machi/topics/topics.cgi">http://www.togoshiginza.net/togoshi/machi/topics/topics.cgi</a> 〒142-0042 品川区豊町4-24-15 TEL.(代)03-5750-7707 FAX.03-5750-7709
品川区立荏原特別養護老人ホーム・在宅サービスセンター・在宅介護支援センター・ショートステイ 〒142-0063 品川区荏原2-9-6 TEL.(代)03-5750-2941 FAX.03-5750-3695 santokukai@aw.wakwak.com 小山台在宅介護支援センター 〒142-0061 品川区小山台1-4-1 TEL.(代)03-5794-8511 FAX.03-5794-8512
品川区立平塚橋特別養護老人ホーム・ショートステイ 〒142-0054 品川区西中延1-2-8 TEL.(代)03-5750-3632 FAX.03-5750-3642 hiratuka-ow01@santokukai.com
品川区立小山在宅サービスセンター「小山の家」 〒142-0062 品川区小山7-14-18 TEL.(代)03-5749-7251 FAX.03-5749-7252 小山在宅介護支援センター TEL.(代)03-5749-7288 FAX.03-5498-0646

**成幸ホーム 中井 さわ江 様 (99歳)**

長女の吉田雅枝様より寄稿いただきました

母は大正12年12月15日に三重県で生まれました。10人兄妹です。生まれて間もなく、家族で東京・葛飾に移りました。子どもの頃は男の子のようで、川で泳いだり、走り回ったりするのが好きだったそうです。

19歳で結婚、当時はまだ戦時中でした。出産間近で家の下敷きになり、赤ちゃんは生まれてすぐに亡くなったと聞きました。母もケガをして治るまでに時間がかかって大変だったそうです。その後、兄と私が生まれ、20歳代後半で、母、祖母、兄、私の四人家族で暮らしていました。母は一家の大黒柱として働き、毎日頑張ってくれました。

祖母が亡くなり、私が品川へ嫁いだ後、母はひとりで暮らすようになってからは毎日のようにわが家に遊びに来ていました。主人の理解もあり、孫と触れあう時間もありませんし、家族みんなで旅行に行ったりたくさん思い出があります。元気な頃は、認知症になってしまった主人の面倒もみてくれていました。

主人の母が亡くなった後、92歳くらいまでひとりで暮らしていましたが、物忘れが始まり、転倒することも増え、近所の方にも迷惑をかけることも出始め、吉田家に引き取りました。転居してしばらくは家に帰りたく強く訴えることもありましたが、デイサービス、ショートステイにお世話になり、慣れるまでが大変で、施設の方に迷惑をかけたと思います。時間が経つにつれ少しずつ施設で話をするようになり、描いた絵を見せてくれる姿に安心しました。その後、認知症の進行、私の首の手術などで自宅での介護が難しくなり、施設にお世話になりました。

入居した後はコロナ禍で面会は限られましたが、会えたときは穏やかな顔をしていましたので安心しました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。



**戸越台ホーム 室井 ツネ 様 (101歳)**

長男の室井幸雄様より寄稿いただきました

大正10年生まれの母は、栃木県の農家の三男一女の末っ子として生まれました。

母が当時35歳(昭和32年)の頃に、世田谷に住んでいた母の兄(三男)を頼って、祖母と私を連れて上京してきました。病気がちでほとんど寝込んでいた祖母と幼少の私を扶養しながら、当時、東五反田にあった東洋製罐東京工場に18年間勤め、57歳の誕生日前に退職しました。以来44年間会社勤めはせずに、若いころ救われた仏教の布教で毎日を過ごしていました。

洋裁・和裁が得意な母は、私に浴衣を仕立ててくれたり、セーターを編んでくれたりしました。77歳の時、私の最初の会社の退職慰安で、初めての海外旅行でハワイに連れて行きました。しかし、86歳の頃から、認知症が始まり、他人様からのお世話になることが多くなりました。生まれた場所が我が家という感覚になってしまったようです。昔であつたら閉じ込められていたでしょうが、私は、そうじゃありませんでした。携帯電話の機能を利用して、足の達者な母親を追いかけた日々を思い出します。しばらくして、足が弱くなって、行動範囲が狭くなりました。

そして、2年前の平成2年4月から新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策にもとづく面会規制期間中に、車椅子でしか移動できない知能と体力になってしまいました。

世田谷区から品川区に移り住んで38年間となります。戸越台ホームにお世話になって7年になります。最悪のこの2年間は希にしか会うこともできなくなったのも重なって、母は私の顔さえもすっかり忘れさったようです。しかし、私の新しい家族を紹介できる日まで生きてほしいと願う毎日です。私は母のおかげさまで幸せな人生を歩いています。



**特集**

**敬老のお祝い**



令和4年度の敬老式典はご家族と共にアットホームな雰囲気でお祝いしました。久しぶりにご家族と会えて話が弾み、皆さま笑顔で写真に納まりました。

いつでも自由にご面会できるようになるのがとても待ち遠しい日々ですが、この先も「米寿」、「卒寿」、「百歳」、「百歳以上」を始めとするご利用者の皆さまが、元気で過ごしていただき、ご家族との面会ができますように願っています。

今回も、様々な人生を歩んでこられた皆さまやご家族に、人生の思い出などのお話を伺いました。

※各施設のお祝いの方々の人数は表のとおりです。

	米寿(88歳)	卒寿(90歳)	白寿(99歳)	新百歳	百歳以上
成 幸 (定員 80)	8	3	4	0	2
戸越台 (定員 72)	6	2	0	0	7
荏 原 (定員120)	6	5	6	3	7
平塚橋 (定員100)	0	6	6	1	4

**荏原ホーム 田崎 ナミ 様 (99歳)**

次女の北田佐代子様より寄稿いただきました

このたびは9月に敬老お祝いの会に参加させていただき、久しぶりに母の顔を見ることができ安心しました。

もう少しで100歳を迎える母、ナミさん。話好きで旅行も大好き、そして料理の天才でもあるかわいい女性です。身体が自由が利かなくなった80歳代後半から病院の付き添い、買い物など、またホームに入ってから面会で話す時間が増えて私の知らなかった母の色々な面を知りました。

母の兄である長男が戦死してしまったことの悲しみ、7人兄弟の長女で家の手伝いや下の子の子守で自分の受けたかった教育がままならなかったこと。しかし優しい父に守られて幸せな時代を迎えることができました。

思い返せば私の知らなかった母の一面を感じた出来事がありました。病院の支払いのため待たせて戻った時に車いすの母が隣のギブスを腕にした青年に「大変でしたね、痛かったでしょ、お大事に」と話しかけていました。青年は朝の新聞配達の際にバイクで転倒し、骨折して一人で病院へ来ていたそうです。一人悲しそうな顔をしていた彼が母の話しかけに帰り際、照れくさそうに「ご心配いただき、ありがとうございます」と言った笑顔が思い出されます。母のやさしさに触れた出来事でした。

大正から令和を生き抜いている大好きな母、支えてくださる職員の皆さまありがとうございます。これからもよろしくお願いいたします。



**平塚橋ホーム 林 あや子 様 (101歳)**

長女の吉田眞佐子様より寄稿いただきました

お母さん、あなたは今どんな風に見えていますか。心は穏やかですか。夜間は風の音にさえ敏感なあなたは、今は静かな闇の中でゆっくりと休めますか。遠い遠い記憶の中にあなたの子どもの私はいますか。共通の思い出を手繰り寄せることがありますか。

母は今101才、認知症も進み平塚橋ホームで静かな日々を過ごしています。7人兄弟の三女として下から2番目に生まれ長姉、長兄とは十数年も離れていたため皆から可愛がられて育ったようです。父とも8才の差があり母の人生はいつも愛されキャラで、周りにはいつも人が集まりました。そこには母の手作り料理が並びます。父も母の料理上手が自慢でよく人を連れてきました。急なお客さまでも嫌な顔を見たことがなく、いつも笑顔でした。

私達がアメリカに住んでいた時、子どもと孫に逢いたい一心で、一人で何回も来ました。最初はドキドキしながら空港で待っているとイギリス人の青年と仲良く出て来たのには驚かされました。母曰く、隣の席の方がたいそう親切で機内食の時、塩、コショウを教えてくれたと英語も話せないのにすっかり友達のような様子です。母は誰とでも心で話ができる人です。

常日頃、私達にも「人には優しくね」が口癖でした。私が小さい頃、クリスマス、お正月、子供の日には母は早く起きて新聞配達、牛乳配達のお兄さんにお菓子を渡していました。あなたの孫は今お母さんそっくりです。人をたくさん呼んでパーティの準備を忙しくしています。この姿を見るにつけ母の教育が孫にもきちんと継承されているのが分かります。

お母さん、子どもと孫、曾孫はあなたが大好きです。あなたが忘れかけた事を私達はひとつひとつ拾いながら心の中で育てています。どうぞのんびりと健やかに過ごして下さいね。

